

年間第二十四主日

2017.9.17

マタイ 18・21-35

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

今日の福音には、主人から1万タラントンの借金を帳消しにもらっていないが仲間、百デナリオンの借金をゆるそうとしなかった僕(しもべ)のたとえ話が語られていました。雨宮神父様の解説によれば、1万タラントンというのは、このお話の時代の労働者の6千万日の賃金に相当する額で、100デナリオンというのは1万タラントンの60万分の1の額だそうです。僕のこれほどの借金を帳消ししてやった主人の度量の大きさと、仲間の100デナリオンほどの借金をゆるそうとしなかった僕のしたことを強調するために、イエスさまはこのようなたとえを語っておられるのでしょうか。このような途方もない話し方をしなければ、神さまのゆるしの大きさはわからないとイエスさまは思っておられたのでしょうか。それほどに、神さまのゆるしの偉大さが、実際にはわたしたちにはわかっていないことをイエスさまは知っておられるのです。

わたしたちは、神さまの大いなるあわれみによるゆるしの恵みをいただいて生かされているのです。本当に自分を反省するならば、そのことに気づかざるをえないはずですが、神さまを信じるということは、わたしたちに向けられている神さまの大いなるあわれみによるゆるしの恵みに気づくということです。そのことに気づいて反省し、わたしたちのお互い同士の関係を生き直すということです。わたしたちの有りようをゆるして、このようなわたしたちを受け入れてくださっている神さまのみ前に生きることによって、傷つきやすいわたしたちのお互い同士の関係は修復され、新たな生気を回復して行くことでしょうか。イエスさまはそのようなことを望まれて、今日の福音を語ってくださっているのです。

神さまの無条件のゆるしを示しているミサを、今日もともに感謝のうちにささげて、わたしたちのお互いの関係が、神さまが望んでおられるようなものとなることを願い合いたいと思います。